



岩手日報社が県内学童に本寄贈

岩手日報社から、県連協に「長引くコロナ禍を過ごす、県内の学童保育クラブの子どもたちに自社の本を寄贈したい」との連絡がありました。県連協では、この申し出を受け加盟学童保育クラブに呼びかけしたところ、約80クラブから配布希望がありました。

11月8日に岩手日報社の高橋直人総合メディア局コンテンツ事業部長が県連協を訪れ、大谷翔平選手の写真集やマンガなど自社出版の本、約120冊を阿部勝会長に手渡しました。

高橋部長は「岩手日報社の本には郷土岩手の先人や世界で活躍するスポーツ選手をテーマにした本が多数あります。本を通じて子どもたちに考える力を培ってもらい、ふるさと岩手を学ぶ機会になれば」と話しました。阿部会長は「学童保育では、本を読んで過ごす子どもたちもいます。本の寄贈はありがたく、お礼を申し上げます。」と感謝を述べました。

配布を希望した学童保育クラブには、12月初旬に届ける予定です。また、大谷翔平選手の写真集については、当初の予定より多くの冊数を寄贈していただいたため、部数に余裕があります。配布を希望されるクラブは県連事務所までご連絡ください。



県連HP刷新へ アンケートに協力を

長引くコロナ禍で対面での交流が難しくなっていることや、県内学童保育クラブのICT化が進んできたことから、県連協ではネットを活用してこれまで以上に県内学童保育クラブの皆さんとつながり双方向での交流を進めていきたいと考えています。そこで、来年度ホームページの刷新を行うことにし、今年度は刷新にむけた準備作業を進めていくことになりました。

県内学童保育関係者の皆さんに、「あつて、よかった」、「役に立った」と思っていただけのホームページを目指しています。皆さんが必要とする情報やコンテンツを充実させるため、アンケートを実施します。アンケートは加盟クラブにメールで送っています。回答はGoogleフォームか、ファクス、メールでお願いします。クラブでの回答のほか、個人の回答も受け付けています。